

会 議 録

件 名	柱本小学校保護者説明会・意見交換会（第1回）
日 時	令和6年6月29日（土）午前10時00分から午前11時10分まで
場 所	柱本小学校 体育館
参加者	保護者 20名（家庭数 19） 今田教育長、岡教育部長、阪口参事、丸山教育総務課長、大谷学校教育課長 長谷川生涯学習課長、森田教育相談センター長、藪下教育委員、田中教育委員、東学校再編推進係長、東川、中山

今田教育長挨拶、丸山教育総務課長から資料説明の後、質疑応答、意見交換になりました。なお、出席した保護者には、後日、意見等を記入できる用紙を配布しました。欠席した保護者にも資料を配布とともに意見等を記入できる用紙を配布します。

本説明で出された意見等は、以下のとおりです。

1-1. 基本的に自分の子供は関係ないですけど、適正と書いているのですが、適正というのは、児童生徒の人数が減るということでもいいのですよね。人口が減るので、それで教育ができないので、このことをするという理解でよろしいのでしょうか。

（教育委員会）

おっしゃる通りで、人数が減っていく中で、よりよい学習環境を整えていくために、人数を多くして、一定の集団を整えるということになります。

1-2. 資料8ページから10ページまでに人口の推移を書いているんですが、生徒はこれだけ減ると感じになっています。特に柱本小学校の方が令和11年に145人から78人に減ると書いていますが、この根拠を示してください。

（教育委員会）

この児童生徒数の変化ですが、出生数を元に転出入がない状況で、生まれた子供が柱本小学校に進んでいくということで計算をしています。

1-3. 出生数ということですが、日本全国で子供は減っていますよね。子ども家庭庁もできるという話の中で、人口を増やしていくことを考えていると思うのです。橋本市は高野口も合わせて7万になって、旧橋本市は多分5万人ぐらいとは思いますが、基本的に収入というか、税収からいくと、多分、固定資産税と住民税の収入で成り立っていると思うのですが、その人口を増やしていくという施策はせずに、学校を減らして統合していくという方向で考えているということよろしいですか。

(教育委員会)

確かに全国もそうなのですが、本市の子供の数も急激に減っています。説明の中でも、この10年間で21%の子供の数が減っていると話させてもらったと思います。どちらかといえば橋本市は子育て支援に力を入れてきました。少子化対策は、国が本来打つべきものだと思うのですが、児童手当であったり、医療費であったり、こども園の受け入れであったりいろんな拡充をしている中で、子育て支援にどちらかといえば力を入れてきました。定住促進は別の部署になりますが、並行して取組んでいます。ただ、この急激に子供の数が減っていくというのは、もう避けられないというのもありまして、一定の方針を示させていただいた次第です。

1-4. 定住促進ということを進めていかれるということですね。紀見ヶ丘には1,000世帯あります。基本的に高齢化も進んでいる中で、空き家も増えているのですが、ここが一番人の出入りが激しいことになっていると思うんです。多分、固定資産税のときも、ここが評価地にされていることは、それだけ人が出入りしているというか、何か変わっているということです。基本的に高齢化していきますが、そこにまた新しい人が住んでいくということになると思うのですが、定住促進を考えているのであれば、紀見ヶ丘に人を増やして、この小学校をそのまま存続させるという方針はないのですか。

(教育委員会)

いただいたご意見につきまして、なかなか教育委員会だけで取組でいくのが正直しんどいところがありまして、市長部局にいただいたご意見を報告します。トンネルが新しくできて、良い方に転がってもらったらいいのですが、いただいたご意見は、この小学校を愛してくれている証だと思うので、市長部局と考えていきたいと思えます。ありがとうございます。

1-5. 資料18ページのどこなのですが、このより良い方向にのところで、問題が発生した場合に解消しやすいと。今のところにクラス替えができると、複数学級と単学級の差ということで、複数学級だったらクラス替えができて、人間関係、交友関係ができるようになっていのですが、実際そういういじめとかがあって、そういう問題が起きた場合、その時は多分、クラスを変えることでは解決できないと思うのです。基本的にそういうときには、学校を変えるということになるかもしれません。もし学校変えるときに、この柱本小が無くなり統合して三石小になった場合に、その時には違うところに行かないといけないんですよ。というのは、今だったら柱本小で、もし問題が起きたときには、三石小のところに行くという選択肢があるわけですよ。その選択で、問題が起きていることを解決するかということも可能やと思うんですけど、それはどう思います。

(教育委員会)

今おっしゃられたように、実際に単学級で何かトラブルがあったときに、本来ならば、その学級の中で解決していくということになると思っています。そのために、教育委員会とし

ましては、教職員への指導であったり、それから状況の確認であったりだとかということも常々お願いしているところなんです。ただ、それでもどうしても人間関係が崩れてしまって、その学級でいられることができないという場合、その学校に2つ以上のクラスがあれば、次年度にはクラス替えでその人間関係をリフレッシュするというのも考えられるかとは思いますが。それもできず、単学級である場合、先ほどのおっしゃられたように、柱本小学校と、それから三石小学校があればということですが、実はこの就学に関する約束事というのがあります。まず、学校の校区というのは、市町村が校区を決めていて、そして、それは就学するための指定地域というふうになっています。保護者の皆さんは、その指定された内容に従って、そこに就学させる義務があります。これは法律で決められていることで、基本的にはその校区にお住まいのところの学校へ行くということにはなっていますが、特別な例がありまして、その時には指定校を変更するという手続きをとっていただければ、別の学校へいけるという特例があります。その理由としましては、今おっしゃいましたようなことで、例えばいじめであったり、何かこう人間関係が崩れたりした場合に、修復が不可能である場合なんかは、その理由として含まれていますので、橋本市内の別の学校に移るということは可能となっています。

1-6. もう1つ気になるのが、今柱本幼稚園に新しいのを建てていますよね。こども園を建てます。でも小学校は無くなります。ここに行きます？このこども園に人來ますか？今でも人が少なく、なのに建て替えるんやと私は思ったんです。建て替えるということはそういう需要があるということですよ。それは柱本小学校に上がるから需要があるんですよ。もし三石小になったら、みんな三石幼稚園に行きますよ。こども園を建てているけどあれも行かなくなりますよ。そういうことを考えずに橋本市はそうされるということですか。柱本の小学校は平木市長の母校でもありますよね。基本的には何か、ここじゃなかったと思いますけど、多分向こうの平木市長の家のあった場所にあったということなんですよ。全てが何かこう、疑問に不思議に思うのは、全部、三石の駅のあるところが中心みたいな感じに思っているところがあるのだったら、それは間違いだと僕は思います。

基本的には、町の中心はもともとあったところなんです。そこをなんかきちんとまちづくりしていかないと、本当に橋本市をどうするのかということも含めて、この教育のこと、小学校のことを考えてもらわないと。これは橋本市のことだからわかりませんかとかというような話の中で、小学校をどこにするのかというのを決めるのは間違いで、橋本市の教育委員会は橋本市にあって、橋本市をどうしていくかというのは、まちづくりを含めて小学校を考えていくべきだと思うのですがそれはどう思いますか。

(教育委員会)

おっしゃられたことは、私たちも同じ思いがありまして、こども園の計画につきましては、同じ行政の中でというご意見は返答しかねるところがございます。紀見こども園計画というのは、4つの公立園を1つのこども園に統合するという形で、柱本幼稚園の跡地に建て替

えていますが、それは北部の受け皿を充実させていきたいということでした。

私たちが申し上げていることは、数年後に三石小学校との統合を提示していますので、繋がりがないというところを指摘されますと申し上げにくいところがあります。ただ、三石小に移ったとしても、この適正規模・適正配置で、例えば通学の補償を考えさせていただいて、公立の9年間というカリキュラムを組んでいきたいというのがありますので、おっしゃるところはあるかもしれないですが、こども課と教育委員会が中学校区でこの流れというのを引き継いでいきたいと考えています。

1-7. 小学校を減らしていくということばかりが充実して、基本的に平成26年に決まったので、それを進めていかなければならないということだけで進めていくのをやめていただきたいと思うんですよ。

やはり子どもが減っていくと言っても、やっぱり人を増やしていかないといけないというのは、橋本市の職員さんも同じだと思うんですね。人口を増やしていこうとしているのでしたら、やはり子供ですよ。子供は日本の宝なんで、それをどうされていくかということやと思うんですね。せやのに橋本市はいろんなところに施設を建てています。施設を建てて、そのための何かの負担というのは自分らにかかっているんですよ。病院も、もともと全部集約して、全部あったのをわざわざ分けてあんなところに建てて、結局借金10億でしょ。だからそんな感じで、何かお金がいつているのに、小学校の教育にはお金をなんかより減らしていくのかって、それが市長の本当の意見なのですか。

そもそも、その教育をやっぱきちんとやっていくというか、そこに何か根づいたものを作っていくというのが必要であって、単学級、複式学級だって単学級であれば十分じゃないですか。それが分校になるというところなんです。分校にあって、それが何かこう合併するとわかるんですけど、単学級、複式学級で単学級になったら統合の対象にするというのは、ちょっと乱暴すぎると私は思うんですけど。そこら辺どうですか。

(教育長)

先ほどからご意見聞かせていただいて、すごくこの場所に柱本小学校があって、この場所にあるだけではなく以前のところからのことも考えていただいて、この街のあり方というのを提案いただいているとそんなふうに思って聞かせていただいています。

私たちも中心におきたいのは、子供たちをどう育てていくかということにあります。本当に極端に子供の数が少なくなっていく。その手前で、こういった形で皆さんとお話をさせていただき、これからの教育のあり方を考えていくことが大事だと思っています。そしたら、どこまでの時点でなったら、それを、例えば学校再編をしていくか、という辺りのことにも最後触れていただいていたと思うのですが、そこに行くまでに、このような形でご意見をいただき、私たちが考えているのは子供を中心において、子供たちの教育を充実させていくためには、子供たちの数の話を先ほどからさせていただいていますが、教員の質の向上、そして教員集団をどうしていくかということも併せて考えていく必要があると思っています。

そのためには、一定の集団規模、子供もそうですし先生方の集団というのも作っていく必要があると思います。その中では負担をかける部分も出てきます。そのところは、どうやってカバーしていくことができるかということで、留意点で何点か示させていただいていますが、そういった中でも、こういった形で負担軽減が図られるのではないかなというようなことがあれば、またご意見をいただけたらと思っています。

私たちも街をどうしていくか、子供たちをどうしていくかと視点で、同じように考えさせていただいているところは変わらない考え方だと、そこはご理解いただけたらと思います。

1-8. 私は橋本市出身ではないですが、移住者ではあります。基本的にうちの子供も6年生で何か関係がないと言え、関係ないとは思うんですね。ただね、今ここで1年生から入った子供、幼稚園から来ている子供、この小学校が令和11年に無くなるということになるわけじゃないですか。それで、この説明会を開いていると思うんですけど。これって結構乱暴やなとは思いますが。できたら保育所とかそこら辺の説明も多分必要じゃないかなと思いますし、基本的にここに書いてある持続可能な創り手の育成と、書いていただいているんですけど、今すぐにでもしてくれたらいいんです。これと統廃合の問題は別やと、私はそもそも思います。

適正と言いますが、人口に合わせたのだったら、逆に人口を増やしていく努力をしてください。橋本市は絶対にしないといけませんよ。それをしないと減っていくと思います。私も老人になっていくので、ここに住んでいるかどうかわかりませんが、それをなんか支えていくのは子供たちなんですよ。それを何かするために国も子ども家庭庁を作ってやるわけでしょ。自治体もやらなあかんんですけど、それが何か小学校を閉めていくのであれば、ここ小学校なくなったら柱本にこの紀見ヶ丘に人來なくなりますよ。紀見ヶ丘は1,000世帯あって、それに空き家もあるわけですよ。空き家に人を入れていこうと思ったら、やはり小学校もある。そういう便利があるということに来ていますよ。もちろんここに来て人というのは大体、大阪とかに勤めてる人が多いです。というのは、あそこに林間田園都市駅があるからで、そこへ歩いて通えるからです。三石台も同じですよ。光陽台も同じやと思うんですね。それを何か増やしていかないと、結局、橋本市は他に事業がないじゃないですか。全て失敗して何も無い。基本的に食べていく方法としては固定資産とその住民税で食べていっているとしたら、もうそれを広げていくしかないわけでしょ。

でも全国的には人口減っていくんですよ。人口減ってきて増やす方法というのは、移住定住しかないんですよ。移住定住するのだったら、紀見ヶ丘が一番適していると自分は思います。値段も手頃やし、リフォームしたら、ちょうど20代30代のサラリーマンが入ってきて、住むのにちょうど子育てにいいんです。そんな人に入ってもらうような手当をもっと充実してください。こういう学校を潰すと言う前に、まず移住定住の事業をもっと広げて行って、もっと人口を増やす手立てを考えてください。それでもどうしようもなくなったから、市が倒れてしまうと、だからこの小学校を維持していきませんと。そういう話の

ときに、こういう話をするというのが筋やと思います。

2. 小学校の話がされているのですが、私の子供からすると中学校の方が結構問題でして、この推計表を見ておりますと、令和17年度には紀見北中学校の学級数が3クラスということは各学年1学級になるということだと理解するんですが、その場合、ちょっと別のページで1クラス、1学年1学級になった段階で統合を考えるとということになっていくと。今の段階では、小学校は紀見北地区で考えておられると思うんですけども、この紀見北中学校が、例えば他の紀見東とかと統合するような案というのは出ているのでしょうか。

(教育委員会)

現在、第2期の基本方針を作らせていただいたんですが、第1期の方針というのは平成26年にできています。その時に、中学校につきましては、クラス替えができない中学校は統廃合を検討していくということで、結果、平成28年に学文路中学校・西部中学校・橋本中学校が統合され、橋本中央中学校になっています。その際、長期的には中学校は4校が望ましいとさせていただきました。紀見北中学校におきましては、令和4年ぐらいになると、生徒数が100名前後になるという予測を立てておりました。そうなってくると、クラス替えができない状況になってくるのですが、実際のところ160名近い生徒がいました。これについては、転入の方が、相当この紀見北中学校区ではおられたと想定しています。

今回、令和17年、18年ごろになりますと、紀見北中学校区の生徒さんは100名を切ってくるというような推計を出させていただいています。これは令和5年に生まれた子供さんが、中1になる段階での子供さんの数を読ませていただいているのですが、転入・転出というのは想定できていません。ですので、今回の方針の中では、中学校については学校再編を検討しないという位置付けにさせていただいています。ただ、第1期の基本方針で長期的には4校が望ましいという考え方について変更はしていません。

従って、この第2期においては、中学校については学校再編の方針はないということでご理解をいただければと思います。

(教育長)

今日で8校の学校を対象とした説明会のうち、ここで7校目となります。これまで実施してきた6か所でもいただいた意見に関し、私の受ける印象なんですけれど、それぞれの学校で、地域の皆様と保護者の方々が、学校をすごく愛してくれている。そして、地域の人たちが学校教育にすごく協力してくださっている。それをすごく感じていて、大変うれしく思っています。

今橋本市で、中学校区ごとに共育コミュニティ、そして学校区ごとにコミュニティスクール、学校運営協議会を立ち上げて、地域とともに子供たちの教育を充実させていこうという取組を15年程度やっているのですが、ようやく手応えを感じるまでになってきているというのをこの説明会を通じても感じており、すごくうれしく思っています。昔は、どちらかというと学校は学校でというようなことが多かったのですが、今はいろんな形で、この柱本

小学校についても地域の人たちが地域の偉人のことについて触れてくれて、そして子供たちが学んだこと、それを返していくというような「ふるさと学習」を行ってくれています。つい最近も芋谷の方へ田植えに行ってくれたのも記事に載っています。こういうのは地域の人たち、保護者の人たちの理解がなければできないことだし、そういったことをして下さることで、学校教育が豊かになっていく。その中で子供たちが本当に自分たちの力で考えていかなければいけないことは何か、そしてそれを地域に返していくことはできないか、ということをお子たちは支えられる立場だけではなく、自分たちがどうにかしていこうという気持ちを持っていくような子供に育てていくと私たちは考えていて、それが少しずつ実現してきていると思っています。これが先ほどご意見をいただいた、教育委員会として橋本市の教育を売っていくポイントの1つだと思っていて、そういうことを理解してくれた中で、こちらへ移ってきてくれている方から話を聞かせてもらいました。

教育委員会としては、教育の充実こそが私たちの橋本市をどうしていくかということについての取組だし、ここに書いていることは学校が既にやってくれていることです。それをさらに進めていくためにということを考えていただけたらと思います。

今日は説明をさせていただき、ご意見をいただくという場にさせていただいています。今後、いただいたご意見をもとに、橋本市としての考え方に移していかなければなりません。その際には今日いただいた意見というのは、反映できるところはしていきたいと思えますし、教育委員会としては、教育の充実、子供たちをどう育てていくかということ、これはしっかり取組んでいきたいということを改めて実感させてもらう場になったと思ひ発言させていただきました。

それと、就学前のお子さんのという話がありました。就学前の保護者の方々にもこのことを伝えさせていただき、ご意見をいただく場を設けております。7月27、28日に予定していますのでお知りおきください。

説明会に出席していただいた保護者の皆様から意見書に記入いただいた意見、並びに欠席された保護者から提出いただいた意見の内容です。

3. 説明会、ありがとうございました。資料 17、18 の課題はどのタイミングで実施されますか。明日からでも進めて欲しい計画です。また、柱本小学校ではできていますか。遠足や修学旅行の費用は、柱本小学校と橋本小学校で差があるのか。児童数が少ないと、目が届きやすいとあるが、目が届き、気が付く先生でないとダメだと思う。ベテランの先生を配置していないから登校できない子供がいるのでは？

4. 柱本小学校と三石小学校の統合後の場所については、柱本小学校の方が校舎も新しく、運動場も広いのに、三石小にする必要がありますか。通学路の防犯も考えてください。スクールバスについて、コミュニティバスとの関係も考え、地域住民の利便性向上を考えてほしい。

5. 子供の数が減っていく中で、ある程度の人数が学習面、人との関わりが出来る事は理解できます。今、住んでおられる方の納得できるあり方で進めてもらいたいです。すばらしい学校づくりをつくられると、新しく転居される方のメリットにもつながると思います。授業スタイルの多様化を目指すなら、ネット環境があるので統合の必要性は、なくても授業は成り立つと思います。

6. 橋本市が目指す学校づくり、子供像がとても良いと思いました。自分の子供たちが家の中だけではなく、社会で思いやりの心を持ち、自分で物事を考え、表現できる子になってほしいと思います。

7. スクールバス通学は必須で、より通学優遇の検討をお願いします。自転車通学の許可や学校前を通過する路線やコミュニティバスの配置、本数を増やす等。また、そのバスやタクシーのチケット、学割チケットのような物を配布する。学童の充実の検討をお願いします。廃校になった学校施設（体育館、運動場）の再利用の検討をお願いします。

8. 説明会の日、都合が悪く、参加できませんでした。子供の人数が減っていると、複式学級になるかも、学校の活気がなくなるなど、問題がある上での提案とはわかるのですが、徒歩で通える小学校を残してほしいです。近い方が安心、バス通学は何となくトラブルの元になりそう、災害時（大雨の時など）の迎えなども今はさっと行けます。私自身、小規模な小学校（旧境原小学校）に通っていましたが、大人になって考えると、設備がとんでもなく悪かったので、どの小学校も公平に設備（特にトイレ）を整えてほしいです。

9. 6年生になる年に統合になる場合、三石小の物品を最後の1年のために買い揃えないといけなくなると負担に感じる。

10. 当日、仕事でしたので、主人に行っていただきました。まず、あの手紙には合併するなどの言葉はなく、来ている人もすごい少なかったようで、通われている方も、まさかこんな話し合いだなんて思っていないのでは？と思います。不親切です。合併なんて言葉を出されていたら、みんな、もっと来ているはずですよ。6年の方で、こども園のことについては話されていたとのことですが、私も同じことを思いました。なぜ、あの場所に建てたのか。ある土地を使わないとダメだったことなど、いろいろと知っています。でも、柱本をそのうち無くさないといけない話があるのに、なぜ、ここに建てるのですか？もう子供が減っているのであれば、建てなくても良かったんじゃないのですか？今から建てて数年後、柱本小が無くなり、これから何十年、紀見ヶ丘も光陽台も、もっと子供が減るでしょう。造る意味が分かりません。色々な所で、この話は保護者がしています。子供が集まりませんよ。

我が子たちも、家から学校が近いです。私たちは、小6の息子が4歳の時に大阪市内から引越してきました。小学校が近くて良かった。中学は遠いけど中学生にもなれば、体力もついているし大丈夫だろうと何度この話をしたことか。子供たちも柱本小が大好きです、合併なんて嫌ですよ。もっと早くまず話をしてほしいかったです。決定事項を伝えただけですよね、もう色々とめちやくちや腹立ってますよ。現場で怒鳴りたかったです。

保護者の話もちゃんと聞いてくださいね。

11. 学校を統合することに対し、目が行き届かなくなることが予想されるものの、社会へ出る準備や練習のためにも必要ですし、反対の気持ちはありません。ただ不安な点は『登下校について』です。現時点でも、子供1人での登下校があり、その距離が長くなるのが心配です。現在、熱中症で倒れても気づいてもらえなさそうです。パトロールで立ってくださってはいませんが、その場所から先は下校時間帯は暑くて人を見かけません。

対策として、送迎の許容、学校周辺での乗降場所の確保、バス、置き勉強など対策も必要だと思います。ご検討の程よろしく願いいたします。

12. まず、橋本市が一番、取組む必要があるのは、この街に住みたいと思う人を増やすこと。橋本市に住めば、子供を育てるのにこんなに支援されるとかがなさすぎる。人口動態と児童生徒数の変化とか、そんなことを数字に出せるなら、先に市がもっといろいろ考えるべきです。中学校、小学校のいろいろな統合を進めるとか、簡単に考えすぎ。もっと元を正すべき。通学の支援は出るんですか、そんなんで。そこの考えも提示してほしいです。授業のやり方は、今の時代に合っているとは思いますが、もっと保護者世代の授業のやり方も必要だと思います。

13. 主人の母校に通わせたいと娘の生まれる前からの主人の希望でこちらに引越し、こちらの小学校に娘を入学させました。二代に渡って思い出深い小学校がなくなるのは、本当に悲しい思いでいっぱいです。思い出を潰すと思って、しっかり心を持って行動に移していただきたいです。

14. 時代に合ったICT活用学習に期待しております。良い教育方針と思われれます。

15. クラス数が増えて、友人関係など、いろいろな経験ができていいと思う。スクールバスが必須だと思われる。

16. 現小学校の児童数くらいが、子供たちにとっても先生に意見が言いやすく、児童同士でも関係性をつくりやすいのではと考えます。多様な考え方も必要だが、一人一人にあった授業の進め方もしやすいのではないのでしょうか。10人を下回り、複式学級が増えた時点で統合ではだめなのか？統合した後に学校へ通うのが遠くなる点でスクールバスを検討されているが、やはりその時間でしか登下校できなくなり、それ以外の時間となると家庭での送り迎えの負担が増えるのでは？統合後、どちらの小学校となるのか(案)も公表して進めてほしい。統合の案が出ている時点で学校のトイレなどの修繕などは本当に必要だったのか。統合して三石小学校になるというのは、どうやって決まっているのでしょうか。

17. 第2期橋本市立小中学校適正規模・適正配置基本方針については、基本的に賛成です。特に第2期適正配置基本方針について大いに賛成です。今後とも、どうか子供たちが社会で活躍できるようにご指導をよろしくお願いいたします。

18. 柱本小学校と三石小学校の統合となりますと、通学に時間がかかるため、入学初めの1年生などは登下校で疲れてしまいそうな気がします。スクールバスは必要だと感じます。

19. 子供の数が減っている以上、小学校や中学校の統合は仕方ないと思います。

20. 適正規模・適正配置基本方針の資料拝見させていただきました。説明会に参加できず申し訳ございません。子供たちの資質や能力を伸ばすためには、学校にある程度の規模を確保し、多様な意見を話し合ったり友達同士で切磋琢磨することも大切だと思いますが、バスを手配してくださるとは言え、家から学校が遠くなりバスに乗れなかったりしたら登下校も心配になります。少人数クラスの方が、先生の目が届きやすくご指導くださると友達同士もみんなが仲良く、深い関係を築けるように思います。